

うちな uchina

南の島おきなわの
心を伝える情報誌

[Vol.10]
2014.12-2015.1月号

定価 802 円

INTERIOR
and
ZAKKA
SHOP GUIDE

特集

あたら しい 沖繩 の家

近頃、気になる
あのお家を訪ねてみました。

沖縄の歴史的建造物／沖縄生まれの建築資材 花ブロック
池中尚子さんのアースバッグハウス／亀谷一家の赤瓦の古民家

[第2特集] 忘新年会特集

琉球茶房 あしびうな／Gallery&Cafe BIGASURI
沖縄料理居酒屋 抱瓶／LOISIR HOTEL NAHA／琉球温泉 瀬長島ホテル

和室とも繋がる開放感あるリビング。
ハイサイドライトから取り入れた光
で明るい室内。



House of new okinawa

間取りを変更できる
未来を意識した家作り

しんぶる あかみねしげたか

simple
赤嶺しげたか

住／うるま市塩屋510-1 #105
☎ 098-974-2500
<http://simple2525.com>

実

家と同じ敷地内、家庭菜園として使われていた土地に、夫妻は、10年近く前から憧れていたという、SIMPLEの赤嶺さんに設計を依頼。施主の生活スタイルを考慮して図案を考える赤嶺さんは、隣接する実家へ背を向けることを避け、一般的には南を開放する間取りだが、あえて北側に開いた。北側に設けたテラスからは実家が見え、リビング、バスルーム、寝室とも繋がっている。

「実家と新築の間のスペースは、実家に帰省したときに、子供たちの遊び場だったと聞いたので、残すようにしました」と赤嶺さん。家を建てるにあたり、一番の難関は東西にそびえ立つ2棟の高層マンション。「光が入るか不安だが平屋にしたい」という声に対して赤嶺さんは、「幸いにも東南の角が空いており、そこから朝日を取り込むことができたので、あまり心配していませんでした。むしろ両側のアパートが普通というフクギと同じ役割となり、台風の時、風を防いでくれるというメリットもあります」とあくまで前向きに対応。

建物からの視線が気になるため、窓は極力小さくして、天窓やハイサイドライト（天井付近の高い位置にある鉛直方向に設けた窓）で採光を捕った。「窓を上配することで光が入りやすく風通しも良くなります」と話す赤嶺さんは、見た目はシンプルだが、中にはぎつしりとこだわりが詰まっている。子供の成長とともに家の間取りが変更しやすいよう工夫がされていたり、靴を脱ぐときに壁に手を当てて汚れが付かないようにと手すりを付けたりと、暮らす上での細かい部分に気遣いが見られる。

「小学校6年生の図工の時間でペン立てを作ったとき、きつちりと引き出しが収まった瞬間、ゾクゾクしました。この感覚を仕事でも味わいたいと思い、親に聞いたら設計士が向いていると、アドバイザーされました」

小学生の頃感じた気持ちを大切に、ペンケース同様に限られた条件の中で箱を作り、すっきりとまとめる。5年、10年、その先まで暮らすことを考えた家作りは、共感と呼んでいる。



リビングはキッチンとも繋がっており、家族と孤立することなく家事が入り、子供の行動も把握できる。



キッチンとして境界をなくすように流行の対面ではなくL字型キッチンを採用。



上/成長とともに、個別の部屋として間仕切りの変更ができるように細長く設けた子供部屋。右/収納の下からも光を採っている。



和室にはマンションからの視線を遮るため、下部のみガラスをはめ込んだ雪見障子を採用。普段は使わないためリビング側の障子は回転式で収納できるようになっている。



左/北側に開いたテラス前には、実家を結ぶ庭が広がる。排水は外に流すのではなく土に返すように心掛けるなど、環境にも配慮。右/一級建築士事務所「simple」のメンバー。一番左が代表・赤嶺しげたかさん。

